2006年7月7日

インターネットドメイン名とアドレスシステムの技術的調整と管理の 継続的移行に対する JPRS のコメント（日本語参考訳）

コメントする機会を頂いたことに感謝する。JPRS は、.JP の ccTLD レジストリとして、これまで、日々のサービス提供、および ICANN をはじめ種々の場での国内・国際協調を通し、インターネットの安定的発展への寄与に努めてきた。ここで得られた経験に基づき、ここに JPRS からのコメントをお送りする。

- (a) インターネットの進展にとって、安定性、競争、民間のボトムアップ調整、多様な軸からの参加が重要であることは、今も真である。
- (b) 単一の権威ルートに基づくインターネットの運営は、これまで実質的に民間主導で行われ、インターネットは大いに進展してきたし、その中心的役割の一部を ICANN が果たしてきたことを、我々は認識している。その中で、(a)の各項目も進展して来た。
- (c) 進展はしてきたが、達成度としてまだ不十分な点があることは、認めねばならない。たとえば、ルートサーバオペレータとの正式な関係の構築、ccTLD の参加、政府の参加は、改善されつつあるがまだ限定的である。しかし、実態として(a)は問題ない程度に実現されており、さらにそれを確固たるものにする方向に着実に動いていることが観測されている。
- (d) これら観測から、ICANN は、さらに改善を続けることが必要な点はあるものの、改善を他組織と連携しつつ自律的に実施する能力があると考えられる。すなわち、ICANN は、DoC との MoU を完了した後も、インターネットに関する調整の中心的役割の一部を果たすに足る組織であるという意見を、ここに我々は申し述べたい。

株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
代表取締役社長 東田幸樹